

# 「希望五郷いわて」

## 農業・農村の復興に向けて⑧

■岩手県沿岸広域振興局大船渡農林振興センター農村整備室・農林水産部農村計画課・農村建設課

岩手県では、本年を「復興加速年」と位置づけ、東日本大震災津波で被災した地域の基盤復興を加速することとしています。

農地・農業用施設の復旧・復興状況は平成23年度から、『希望郷いわて』農業・農村の復興に向けて』と題して紹介してきました。

本号では、「陸前高田市気仙町今泉地区」と「大船渡市三陸町吉浜地区」における復旧・復興に向けた取り組み状況や農家の方々の思い、他県からの派遣職員の活躍などを紹介します。

### 1 大船渡管内の農地復旧状況

当センター管内（大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市）の復旧対象農地は、全体で522haあり、市町の土地利用計画や関連する事業と調整し、工事が可能な場所から順次、復旧・復興を進めています。

今年5月までに152haを復旧し、今年度は、被災農地と周辺農地とを一体的に整備する復興基盤総合整備事業（ほ場整備事業）などの実施により、さらに約160haの農地を復旧する計画としています。

### 2 陸前高田市今泉地区の方々の想い

陸前高田市気仙町今泉地区では、今年の春、約7haの農地復旧工事が完了しました。その大半を、震災後に8名の農家で結成した今泉復興農事組合が営農しています。

震災直後、「食べ物がなく、だいこんを採りに畑に向かったんだ。あるわけないのにね。自然と体が畑に向かったんだ」と菅野勝（かんの つよし）組合長は話します。そこには、津波によるガレキが散乱する田畑が広がっていました。しかし、「営農再開をあきらめたことはない」と話す菅野剛（かんの たけし）事務局長。震災の春、作付け可能な高台の田畑を探し、米やだいこんを育てました。

震災後、「人のつながりのありがたさを実感している」と2人は声をそろえます。組合結成も日常の会話から自然と話が進んだそうです。組合のメンバーは

個性派ぞろい。栽培技術に長けた組合長、交渉力のある事務局長、アイデアアマンの長老、重機操作が得意な組合員、米の調整技術に秀でた組合員な



復旧農地では作付けが再開されました



今泉復興農事組合 菅野勝 組合長



今泉復興農事組合 菅野剛 事務局長

ど、「みんなそれぞれ得意分野があり、本当に心強い」と菅野組合長は話します。田んぼの復旧に併せ、同市の酒造会社「酔仙酒造」の純米酒「多賀多（たかた）」も復活します。「多賀多」は同社が地元の米を使い2005年から造っていたものです。酔仙酒造からは「こんなに早く米作りが復活するとは思ってなかった」と驚かれたといいます。「今すごく充実している。農地があるから。」と2人は話します。「県と一緒にやって農地復旧工事を進められた。だから酒米づくり復活の話も工事中から早めに動くことができた。言いたいことも随分言ったけども」と菅野事務局長は笑います。「応援してくれる人たちがいる。俺らは応えなければならぬ」と支援に感謝し、「できるかどうかではなく、やる。そのためには何が必要か考え動く」と話す2人。行動力あふれる同組合の益々の発展が期待されます。

### 3 大船渡市吉浜地区の方々の想い

大船渡市三陸町吉浜地区は、今年の春、災害復旧と一体的に行うほ場整備工事約30haに着手しました。ここに至るまでに、被災直後から吉浜農地復興委員会が主体となり、復興に向けた話し合いを地域内で何回も重ねてきました。同委員会の柏崎剛（かしわごさたけし）会長に、地域農業の復興、景勝地「吉浜」復活への想いを語っていただきました。

「東日本大震災津波により壊滅的被害を受け、早急な復旧が待ち望まれていた農地と海岸堤防の工事が、本格的に始まることとなりました。これも、多くの関係各位のご理解とご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

農地と海岸堤防が被災し途方に暮れているときに、県農林水産部農村計画課のご助言をいただきました。その後、地域と市農林課、沿岸広域振興局農林部大船渡農林振興センター農村整備室のご指導、ご助言をいただきながら、地域の皆様、地権者の皆様と協議を重ね、将来を見据えた、大規模な区画整理を

行うほ場整備事業を実施することになりました。営農再開後は、農業にこそしみ地域で協力しながら美しい農地を守り続けてまいりたいと思



吉浜農地復興委員会  
柏崎剛会長



復旧工事が本格化した吉浜地区の海岸堤防及びほ場整備

ます。

また、海岸堤防の高さは、住民様々な意見がありました。完成後は、震災前の広大で美しい砂浜がよみがえり、多くの海水浴客でにぎわうことを楽しみにしています。」

### 4 派遣職員の活躍

今年度、大船渡農林振興センター農村整備室では7道府県（北海道、秋田、長野、静岡、大阪、奈良、香川）から15名の精鋭の皆さんに応援をいただきながら、農地や海岸堤防の復旧業務を進めています。

「復興加速年」の名のとおり、急ピッチで復旧工事を進めています。未曾有の大震災津波からの復旧・復興であるため、現場では『被災前の状況を農家から聞き取りながら進める農地の原形復旧工事』や『大量の盛土を伴うほ場整備』、『至急の整備が求められる海岸堤防工事』など今まで経験したことのない局面に立ち向かっています。

このような課題に対しても、派遣職員の皆さんは、持ち前の技術力を発揮し、三陸復興を力強く牽引しています。



7道府県からの派遣職員

慣れない土地、また、「言葉の壁」がある中で、奮闘する派遣職員の皆さんに是非読者のみなさんからの「応援」をお願いします。